

外国人を雇用される事業所の皆さまへ

今知ってほしい結核

結核は、昔の感染症ではありません。

結核に「かからない」、「うつさない」ために、みなさんに知ってほしい結核の知識についてまとめました。職場内での結核の感染予防対策にご活用ください。

知っておきたい！結核の知識

結核ってどんな感染症？

- 結核菌によっておこる肺の病気です。
- リンパ節やその他の部位に感染する場合があります。
- 結核は、空気中にただよう「結核菌」が肺に入って感染します。ただし、結核は、正しく理解し、適切な治療を行えば、必ず治る病気です。

特徴的な症状



長引く
微熱



長引く
せき・たん



だるさ
食欲不振



体重減少

「感染」と「発病」の違いは？発病しやすい人は？

「感染」 結核菌が体内で眠っている状態です。

菌は免疫力で抑えられているため、症状は特になく、周りの人にうつすこともありません。

「発病」 結核菌が目覚め、免疫の抑えが取れて菌が活動し、肺などを障害し始めた状態です。

咳やだるさなど症状が出始め、人にうつす可能性があります。

ただし、結核菌が体の中に入った（感染した）としても、免疫力が菌を抑えつけているため、実際に発病する人は2～3割程度です。

⚠ 発病しやすい人： 免疫力が下がる病気にかかっている人や、高齢者、乳幼児は注意が必要です。



注目!

職場内で結核を広げないためには、正しく理解し、適切に対策することが重要です

海外から入国された方の結核が増えています

- 近年、日本では海外から入国された方の結核が増加傾向にあり、いわき市でも増加しています。若い世代に多いのが特徴です。
- アジアの国々を中心に、結核がまん延しているため、知らない間に感染し、入国後に健診などで発見される人もいます。

20代の結核患者の
約90%※を占めています



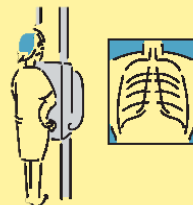
～結核の感染を広げないために～ 職場の皆様ができること

健康診断を実施しましょう

- 労働安全衛生法に基づき、事業者には健康診断の実施が義務付けられています。

雇入時の健康診断
(雇用時に実施)

定期健康診断
(1年に1回実施)



健康診断(胸部レントゲン検査)で要精密検査判定になった場合



早期に精密検査を受けましょう



職場の管理者は、受診勧奨・
結果管理を行いましょう

症状があるときは、早めに受診するように勧めましょう

- ☑ せき、たん、発熱など風邪のような症状が2週間以上続くとき
- ☑ 仕事を続けて休んだり、元気がない、顔色が悪い、やせてきた時など

もし、職場で結核患者が発生したら

- 結核は薬で治る病気です。最後まで治療が続けられるよう、服薬の支援をお願いします。
- 「結核＝働けない」ではありません。早期に、人に感染させる可能性が低い状態で発見することができれば、周囲に感染させることなく、通院で治療しながら、働くことが可能です。
- 人に感染させる可能性が高い患者さんの場合は、更なる感染者がいらないか確認するために、保健所が職場への聞き取りや接触者の健診を行います。
- 結核は空気感染のため、物品や施設内の消毒は必要ありません。
- 結核は、誰もがかかる可能性があります。結核について正しい知識を持つことが、差別や偏見の解消につながります。